

科目名	言語文化	単位数	3単位
		学年等	1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>「高等学校 言語文化」(数研出版)</p> <p>「新装版 現代文読解 WORKS レッスン1」(尚文出版)</p> <p>「意味から学ぶ常用漢字 漢字検定5級～2級対応」(第一学習社)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○古文の世界を楽しむ ・古文チェックポイント〔1〕〔2〕 ・『竹取物語—なよ竹のかぐや姫』 ○平安宮廷文学の世界 ・『枕草子—ありがたきもの』 ○現代文読解 WORKS 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業の行動観察 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業の行動観察 ・ワークシート
	評価点	100点	100点	100点
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○現代にも生きる教え ・『徒然草—ある人、弓射ることを習ふに』 ○受け継がれる古文 ・『羅生門』/『今昔物語集』 ・月の古称/十二支 ○和歌による心の交流 ・『伊勢物語—筒井筒』 ○現代文読解 WORKS 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業の行動観察 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業の行動観察 ・ワークシート
	評価点	100点	100点	100点
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語の中に生きる漢文 ・漢文チェックポイント〔1〕〔2〕 ○故事と成語 ・『漁夫之利』 ・『朝三暮四』 ○現代文読解 WORKS 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業の行動観察 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業の行動観察 ・ワークシート
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学期	4	○古文の世界を楽しむ ・古文チェックポイント〔1〕〔2〕 ・『竹取物語—なよ竹のかぐや姫』	20
	5	○現代文読解 WORKS <div style="text-align: right;">1学期中間考査</div>	
	6	○平安宮廷文学の世界 ・『枕草子—ありがたきもの』 ○現代文読解 WORKS	20
	7	 <div style="text-align: right;">1学期期末考査</div>	
2 学期	8	○現代にも生きる教え	20
	9	・『徒然草—ある人、弓射ることを習ふに』	
	10	○受け継がれる古文 ・『羅生門』/『今昔物語集』 ・月の古称/十二支 <div style="text-align: right;">2学期中間考査</div>	
	11	○和歌による心の交流 ・『伊勢物語—筒井筒』	
12	○現代文読解 WORKS <div style="text-align: right;">2学期期末考査</div>	25	
3 学期	1	○日本語の中に生きる漢文 ・漢文チェックポイント〔1〕〔2〕	20
	2	○故事と成語	
	3	・『漁夫之利』 ・『朝三暮四』 ○現代文読解 WORKS <div style="text-align: right;">3学期学年末考査</div>	

5 その他

<ul style="list-style-type: none"> ・各古文教材の学習時には、『少年少女古典文学館』の文章などを用い、古文作品の概説を学ぶ。 ・副教材『意味から学ぶ常用漢字』を定期考査、漢字小テスト、及び長期休暇の課題とする。 ・副教材『新装版 現代文読解 WORKS レッスン1』の評論文を授業で扱い、残りは長期休暇中の課題とする。

科目名	公共	単位数	2単位	学年等	1学年
-----	----	-----	-----	-----	-----

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書:高等学校 新公共(第一学習社)</p> <p>副教材等:最新 公共 資料集(第一学習社)、新公共ノート(第一学習社)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の形成者として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価点	700点	700点	700点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割 主題2 契約と消費者の権利・責任 主題3 司法参加の意義	・定期考査 ・小テスト等 ・ワークシート	・定期考査 ・ノート等の提出物 ・パフォーマンス課題	・授業中の行動観察 ・ノート等の提出物 ・パフォーマンス課題
	評価点	240点	240点	240点

2 学 期	第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛 主題7 国際社会の変化と日本の役割 第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題 主題9 社会の変化と職業観 主題10 市場経済の機能と限界	・定期考査 ・小テスト等 ・ワークシート	・定期考査 ・ノート等の提出物 ・パフォーマンス課題	・授業中の行動観察 ・ノート等の提出物 ・パフォーマンス課題
	評価点	300点	300点	300点
3 学 期	主題11 金融のはたらき 主題12 財政の役割と社会保障 主題13 経済のグローバル化 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる 私たち	・定期考査 ・小テスト等 ・ワークシート	・定期考査 ・ノート等の提出物 ・パフォーマンス課題	・授業中の行動観察 ・ノート等の提出物 ・パフォーマンス課題
	評価点	160点	160点	160点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	〈中間考査〉
	5	第3章 公共的な空間における基本的原理 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	
	6	第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割 主題2 契約と消費者の権利・責任 主題3 司法参加の意義	〈期末考査〉
2 学 期	8	第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論形成	〈中間考査〉
	9	主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛	
	10	主題7 国際社会の変化と日本の役割 第3章 経済的な主体となる私たち	
	11	主題8 雇用と労働問題 主題9 社会の変化と職業観 主題10 市場経済の機能と限界	〈期末考査〉
3 学 期	1	主題11 金融のはたらき 主題12 財政の役割と社会保障 主題13 経済のグローバル化	〈学年末考査〉
	2		
	3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	

5 その他

定期考査の結果だけでなく、日々の授業での取組状況、提出物への取組状況などを総合的に評価します。

科目名	数学 I	単位数	3単位
		学年等	1学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>改訂版 最新 数学 I (数研出版)</p> <p>教科書傍用 パラレルノート 数学 I (数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<p>命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価点	210	210	210

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・中学校の内容の確認 ・数と式 ・データの分析	・定期考査	・定期考査 ・振り返りシート ・課題 ・授業の行動観察	・振り返りシート ・課題 ・授業の行動観察
	評価点	70	70	70
2	・図形と計量 ・集合と命題	・定期考査	・定期考査 ・振り返りシート ・課題 ・授業の行動観察	・振り返りシート ・課題 ・授業の行動観察
	評価点	70	70	70
3	・2次関数	・定期考査	・定期考査 ・振り返りシート ・課題 ・授業の行動観察	・振り返りシート ・課題 ・授業の行動観察
	評価点	70	70	70

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	中学校の内容の確認	12
	5	第1章 数と式	
1	6	第1節 式の計算	24
	7	第2節 実数	
		第3節 1次不等式	
		第5章 データの分析	
2	8	第4章 図形と計量	18
	9	第1節 三角比	
	10		
	11	第2節 正弦定理・余弦定理	27
	12	第2章 集合と命題	
3	第3章 2次関数	24	
2	第1節 2次関数とグラフ		
3	第2節 2次方程式と2次不等式		

5 その他

--

科目名	科学と人間生活	単位数	2単位
		学年等	1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術(特に工業)と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>
使用教科書 副教材等	<p>第一学習社 高等学校 科学と人間生活</p> <p>実教出版 アクセスノート 科学と人間生活 新課程版</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然と人間生活との関わり及び科学技術(特に工業)と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、人間生活と関連付けて表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	[第IV章 地球や宇宙の科学] より 第1節 自然景観と自然災害[選択] [第III章 熱や光の科学] より 第1節 熱の性質とその利用[選択] (4 熱の伝わり方まで)	・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の発問への応答意欲等 ・学習課題や探究活動への意欲等
	評価点	230点	230点	230点
2 学期	(5 仕事や電流と熱の発生から) [第II章 生命の科学] より 第2節 微生物とその利用[選択]	・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の発問への応答意欲等 ・学習課題や探究活動への意欲等
	評価点	260点	260点	260点
3 学期	[第I章 物質の科学] より 第1節 材料とその利用[選択]	・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の発問への応答意欲等 ・学習課題や探究活動への意欲等
	評価点	110点	110点	110点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学期	4	〔第IV章 地球や宇宙の科学〕 第1節 自然景観と自然災害 ① 日本列島のなりたち ② 火山活動と地表の変化 ③ 火山災害と防災 ④ 地震の発生 ⑤ 地震災害と防災	8
	5	⑥ ⑦ 水のはたらきと地表の変化 探究活動 河川のはたらきを考える ⑧ 気象災害と防災 〔第III章 熱や光の科学〕 第1節 熱の性質とその利用	4
	6	① 温度と熱運動 ② ③ 熱容量と比熱 探究活動 物質の温まりやすさ ④ 熱の伝わり方 ⑤ 仕事や電流と熱の発生	12
	7	探究活動 探究活動の報告会1	4
2 学期	8	⑥ エネルギーの移り変わり ⑦ エネルギー資源の有効活用	4
	9	〔第II章 生命の科学〕 第2節 微生物とその利用 ① 身近な微生物 探究活動 微生物の観察	4
	10	② 微生物の発見 ③ ④ 生態系内の微生物 探究活動 微生物のはたらき ⑤ 微生物の利用	14
	11	⑥ ⑦ 食品と微生物 ⑧ 医薬品と微生物 ⑨ 微生物の利用の広がり 〔第I章 物質の科学〕 第1節 材料とその利用 化学を学ぼう 振り返りと基本事項	4
	12	① プラスチックの特徴 探究活動 分子モデル	2
	1	② ③ プラスチックの分類と用途 探究活動 プラスチックの性質の違い ④ さまざまなプラスチック ⑤ 金属と人間生活	14
3 学期	2	⑥ ⑦ 金属とその製錬 ⑧ 金属のさびと合金 探究活動 探究活動の報告会2	
	3	学年末考査	

5 その他

- 科学と人間生活の授業では、毎時間ワークシートの提出とチェックがあります。集中して授業に臨みましょう。
- 学習課題や振り返り教材は Classroom でも提供します。自宅学習や定期考査への準備に役立て下さい。
- 探究活動においては、これまで学習した内容から各個人で仮説を立て、グループで探究計画の立案と結果の考察を行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。また、表現力を育成する目的で報告会を実施します。

科目名	体育	単位数	2 単位
		学年等	1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしているとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	A 体づくり運動 E 球技 H 体育理論(第1章 ア)	・実技テスト ・小テスト	・授業中の行動観察 ・小テスト	・授業中の行動観察 ・自己評価シート
	評価点	100 点	100 点	100 点
2 学期	C 陸上競技 E 球技 F 武道 H 体育理論(第1章 イ)	・実技テスト ・小テスト	・授業中の行動観察 ・小テスト	・授業中の行動観察 ・自己評価シート
	評価点	100 点	100 点	100 点

3 学 期	C 陸上競技 H 体育理論(第1章 ウ、エ)	・実技テスト ・小テスト	・授業中の行動観察 ・小テスト	・授業中の行動観察 ・自己評価シート
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	A 体づくり運動	10
	5	ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画	
	6	E 球技	14
	7	イ ネット型(バレーボール)	
		H 体育理論 第1章 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 ア スポーツの歴史的発展と多様な変化	2
2 学 期	8	C 陸上競技	10
	9	ア 長距離走	
	10	E 球技	9
	11	ウ ベースボール型(ソフトボール)	
		F 武道 ア柔道	9
		H 体育理論 第1章 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 イ 現代のスポーツの意義や価値	2
3 学 期	1	C 陸上競技	12
	2	ア 長距離走	
	3	H 体育理論 第1章 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 ウ スポーツの経済的効果と高潔さ エ スポーツが環境や社会にもたらす影響	2

5 その他

--

科目名	保健	単位数	1 単位
		学年等	1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向け学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善するための資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>新高等保健体育(大修館書店)</p> <p>新高等保健体育ノート(大修館書店)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	第1章 現代社会と健康 ア 健康の考え方 イ 現代の感染症とその予防	・定期考査等	・小テスト ・授業の行動観察	・学習課題等 ・振り返りシート ・授業中の行動観察
	評価点	100点	100点	100点
2 学期	ウ 生活習慣病などの予防と回復 エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 オ 精神疾患の予防と回復	・定期考査等	・小テスト ・授業中の行動観察	・学習課題等 ・振り返りシート ・授業中の行動観察
	評価点	100点	100点	100点
3 学期	第2章 安全な社会生活 ア 安全な社会づくり イ 応急手当	・定期考査等	・小テスト ・授業中の行動観察	・学習課題等 ・振り返りシート ・授業中の行動観察
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
1 学 期	4	第1章 現代社会と健康 健康の考え方	6	
	5	1 日本における健康課題の変遷 2 健康の考え方と成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり		
	6	4 健康に関する意思決定・行動選択		
	7	現代の感染症とその予防		5
		5	5 現代における感染症の問題	
		6	6 感染症の予防	
		7	7 性感染症・エイズとその予防	
-----1学期期末考査				
2 学 期	8	第1章 現代社会と健康	7	
	9	生活習慣病などの予防と回復		
	10	8 生活習慣病の予防と回復	5	
		9 身体活動・運動と健康		
		10 食事と健康		
	11	11 休養・睡眠と健康	4	
		12 がんの予防と回復		
12	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康		4	
	13	13 喫煙と健康		
	14	14 飲酒と健康		
	15	15 薬物乱用と健康		
	精神疾患の予防と回復			
16	16 精神疾患の特徴			
17	17 精神疾患への対応			
-----2学期期末考査				
3 学 期	1	第2章 安全な社会生活	4	
	2	安全な社会づくり		
	3	1 事故の現状と発生要因 2 交通事故防止の取り組み 3 安全な社会の形成		
	応急手当		4	
	4	4 応急手当の意義		
	5	5 心肺蘇生法		
6	6 日常的な応急手当			
-----3学期期末考査				

5 その他

--	--

科目名	書道 I	単位数	2単位
		学年等	1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	38 光村 書 I 705

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造しようとしている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学 期	○漢字の変遷とさまざまな書体 ○楷書の基本点画 ○漢字の書 1	・作品 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート	・ワークシート ・ファイル ・授業中の行動観察
	評価点	100点	100点	100点
2 学 期	○漢字の書2 ○仮名の書 ○生活の中の書	・作品 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート	・ワークシート ・ファイル ・授業中の行動観察
	評価点	150点	150点	150点
3 学 期	○生活の中の書 ○漢字仮名交じりの書	・作品 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート	・ワークシート ・授業中の行動観察
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	○漢字の変遷と書体 漢字の変遷過程とさまざまな書体	4
	5	○楷書の基本点画 楷書の用筆と運筆	4
	6	○漢字の書1 唐の四大家や三筆の書の臨書(半紙作品制作)	16
	7	古典の鑑賞・臨書作品の相互鑑賞	
2 学 期	8	○漢字の書2 唐の四大家や三筆の書の臨書(画仙紙作品制作)	14
	9	古典の鑑賞・臨書作品の相互鑑賞	8
	10	○仮名の書 仮名の成立と、仮名の筆遣い 古筆の臨書と鑑賞	
	11	○生活の中の書 書初め(長半紙)	12
	12	実用書(硬筆)	
3 学 期	1	○生活の中の書 実用書(硬筆)	4
	2	○漢字仮名交じりの書	8
	3	古典をいかした創作と鑑賞	

5 その他

- 定期考査は実施しません。作品などの毎回の提出物を、期日を守り提出することが重要です。
- 授業道具の丁寧な扱いができていないか、忘れ物はないかなども評価の対象となります。

科目名	英語コミュニケーション I	単位数	3単位
		学年等	1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>COMET English Communication I (数研出版)</p> <p>COMET English Communication I ベーシックノート(数研出版)</p>

2評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。</p> <p>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
評価点	600点	600点	600点

3評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学 期	Lesson 1 What Did You Do in Japan? 英会話 自己紹介	<p>・定期考査等</p> <p>・学習課題等</p>	<p>・定期考査等</p> <p>・学習課題等</p> <p>・パフォーマンステスト等</p>	<p>・授業中の行動観察</p> <p>・学習課題等</p> <p>・パフォーマンステスト等</p>
	Lesson 2 When Do You Feel Happy? Lesson 3 Onigiri Goes Overseas 英会話 ショッピング			
	評価点	200点	200点	200点
2 学 期	Lesson 4 Pictograms Lesson 5 Morita Yuko 英会話 スピーチ	<p>・定期考査等</p> <p>・学習課題等</p>	<p>・定期考査等</p> <p>・学習課題等</p> <p>・パフォーマンステスト等</p>	<p>・授業中の行動観察</p> <p>・学習課題等</p> <p>・パフォーマンステスト等</p>
	Lesson 6 Convenience Stores			

	Lesson 7 High School Aquarium 英会話 道案内			
	評価点	200点	200点	200点
3 学 期	Lesson 8 Smart Farming	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・学習課題等 ・パフォーマンス テスト等	・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・パフォーマンス テスト等
	Lesson 9 Food Waste			
	Lesson 10 William and His Windmill			
	英会話 グループプレゼンテーション			
	評価点	200点	200点	200点

4指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	Lesson 1 What Did You Do in Japan?	12
	5	英会話 自己紹介1学期中間考査	
	6	Lesson 2 When Do You Feel Happy?	
	7	Lesson 3 Onigiri Goes Overseas 英会話 ショッピング1学期期末考査	
2 学 期	8	Lesson 4 Pictograms	18
	9	Lesson 5 Morita Yuko	
	10	英会話 スピーチ2学期中間考査	
	11	Lesson 6 Convenience Stores	
3 学 期	12	Lesson 7 High School Aquarium 英会話 道案内2学期期末考査	27
	1	Lesson 8 Smart Farming	24
	2	Lesson 9 Food Waste	
		Lesson 10 William and His Windmill 英会話 グループプレゼンテーション	
3学年末考査		

5その他

- 授業中または考査において、パフォーマンステスト(ライティング、インタビュー、プレゼンテーション等)が課されます。
- 生徒の学習到達度に依って、計画変更の可能性が有ります。

科目名	総合的な探究の時間	単位数	1単位
		学年等	1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会及び職業と自己を関連付けた総合的な学びを通して、自己の在り方や生き方を考えながら、広い視野で課題を発見し計画的且つ論理的に課題の解決ができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。</p> <p>(1)地域や社会及び職業と自己を関連付けた探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会及び職業において多種多様な人、もの、ことが絡み合い、それぞれの良さを発揮しそれらが成り立っていることに気付く。</p> <p>(2)地域や社会及び職業と自己との関わりの中から問いを見だし、その解決に向けて、先の見通しを持って課題に取り組む力を身に付けるとともに、広い視野で調査・分析し、そして論理的にまとめ・表現できる力を身に付ける。</p> <p>(3)地域や社会及び職業と自己を関連付けた探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、望ましい勤労観・職業観を醸成し、同時に互いの良さや自己の価値を理解し、粘り強く物事に取り組み、自己及び社会の未来を切り拓こうとする態度を育てる。</p>
使用教科書 副教材等	<p>広島市エガイドンス</p> <p>進路サポート「進路探究ワーク2」「進路探究ムック2」((株)ベネッセコーポレーション)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>地域や社会及び職業と自己を関連付けた探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会及び職業において多種多様な人、もの、ことが絡み合い、それぞれの良さを発揮しそれらが成り立っていることに気付いている。</p>	<p>地域や社会及び職業と自己との関わりの中から問いを見だし、その解決に向けて、先の見通しを持って課題に取り組む力を身に付けるとともに、広い視野で調査・分析し、そして論理的にまとめ・表現できる力を身に付けている。</p>	<p>地域や社会及び職業と自己を関連付けた探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、望ましい勤労観・職業観を醸成し、同時に互いの良さや自己の価値を理解し、粘り強く物事に取り組み、自己及び社会の未来を切り拓こうとしている。</p>
評価点			

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1学期	<p>単元1 自分を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入(概要・目的を知る、自己分析) ・具体的な進路について考える ・自分の興味・関心から考える ・自分の進路を実現するために ・進路適性検査 ・求人票の見方を知る ・1学期の振り返り活動及び進路学習 	<p>ワークシート</p> <p>ポートフォリオ</p> <p>授業の行動観察</p>	<p>ワークシート</p> <p>ポートフォリオ</p> <p>授業の行動観察</p>	<p>ワークシート</p> <p>ポートフォリオ</p> <p>授業の行動観察</p>

2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・進路適性検査解説講演会 単元2 自分と社会を繋げる <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心から職業を知る ・進学か就職か考える ・職業・上級学校研究 ・社会の諸問題について調べる ・工場見学(事前指導・事後指導含む) ・探究してきた進路を整理する、人に考えを伝える手段を学ぶ ・レポート(自己PR・志望理由)の作成 	ワークシート ポートフォリオ 授業の行動観察 レポート	ワークシート ポートフォリオ 授業の行動観察 レポート	ワークシート ポートフォリオ 授業の行動観察 レポート
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生との進路対談準備及び対談活動 ・発表活動準備及び発表活動 ・探究してきた進路を振り返る 	ワークシート ポートフォリオ 授業の行動観察 パフォーマンス課題	ワークシート ポートフォリオ 授業の行動観察 パフォーマンス課題	ワークシート ポートフォリオ 授業の行動観察 パフォーマンス課題

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	単元1 自分を考える ・導入(概要・目的を知る、自己分析)	2
	5	・具体的な進路について考える ・自分の興味・関心から考える	1 1
	6	・自分の進路を実現するために ・進路適性検査	2 1
		・求人票の見方を知る	3
	7	・1学期の振り返り活動及び進路学習	2
2 学 期	8	・進路適性検査解説講演会 単元2 自分と社会を繋げる	1
	9	・自分の興味・関心から職業を知る ・進学か就職か考える	1 2
	10	・職業・上級学校研究 ・工場見学事前指導	3 1
		・社会の諸問題について調べる	2
	11	・工場見学及び事後指導 ・探究してきた進路を整理する、人に考えを伝える手段を学ぶ	3 1
12	・レポート(自己PR・志望理由)作成	1	
3 学 期	1	・3年生との進路対談準備及び進路対談	2
	2	・発表活動準備及び発表活動 ・探究してきた進路を振り返る	5 1
	3		

5 その他

・総合的な探究の時間では、情報収集、自己表現活動、発表活動及び振り返り活動を通して、自己のキャリア形成に関する考え・能力を深めていきます。その際、ICT 機器を活用します。
・年間を通して、ポートフォリオを作成し、自己の学びの変容を見取れるようにします。

科目名	工業技術基礎	単位数	3 単位
		学年等	機械科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	実教出版「工業701工業技術基礎」

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。	工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	400 点	400 点	400 点

3 評価の計画

区分	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	旋盤実習 ・端面削り ・外径切削 ・突切バイト加工 ・フライス盤作業	課題作品 授業中の行動観察	授業中の行動観察	授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
B	溶接実習 ・アーク溶接 ・ガス溶接、ガス切断 ・すみ肉溶接 ・半自動溶接、継手の仮止め	課題作品 授業中の行動観察	授業中の行動観察	授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
C	○電気工事 1. 工具・器具の正しい使用方法 2. 配線回路・配線規則の基礎 3. 図面作成・配線作業	課題作品 授業中の行動観察	授業中の行動観察	授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
D	コンピュータ実習 ・ソフトウェアとオペレーティングシステム ・ネットワークマルチメディア ・パソコン利用技術	授業中の行動観察 課題への取り組み 姿勢	授業中の行動観察	授業中の行動観察 課題の完成度
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

区分	学習内容	時数
A	1 オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、実習後の片付け など) 2 旋盤作業 基本操作(バイトの取り付け、レバーの設定、緊急時の対応方法) チャック作業、端面削り 外径切削、センタ穴あけ 外径加工、ボス加工 仕上げ加工 3 フライス盤作業 基本操作 仕上げ切削 4 ボール盤作業 5 まとめ	27
B	1 オリエンテーション(作業内容確認) 2 安全教育 3 アーク溶接 仕組みについて理解する アークの発生、アークの持続の方法 ストリンガービートの作り方 溶接条件 4 ガス溶接、ガス切断 ガス切断の手順 ……ガス切断実技試験…………… ガス溶接の手順 5 すみ肉溶接 すみ肉溶接の方法と重要点 6 半自動溶接、継手の仮止め CO2 溶接の原理を理解する 7 まとめ	27
C	1 オリエンテーション、事故防止と安全作業について理解する。 2 正しい工具の使い方や取り付け方法を理解させる。 3 配線図の作図及び内線規程に関する基礎的な事項を理解させる。 4 工具の使い方や配線や結線に必要な基礎知識を身に付けさせる。 5 第二種電気工事士試験の実技課題の製作を通して、一連作業の技能を身に付ける。 6 完成までの工程を自らが探求し、知識と実力を深めていく。	27
D	1 オリエンテーション(身近にある ICT 機器について) 2 コンピュータの構成と5大機能 3 コンピュータの基本動作を確認する 4 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア 5 パソコン用汎用オペレーティングシステムの例 6 ネットワークの形式 7 マルチメディアの種類 8 インターネットの利用 9 パソコン利用技術(word)の習得(文章・図・表の作成)	24

5 その他

- 工業技術基礎の授業では機械科における様々な知識・技能について各パート実習を通して身に付けていきます。
- A、B、C、DはそれぞれA「旋盤実習」、B「溶接実習」、C「電気工事」、D「コンピュータ実習」となります。
- 1年生では基礎的な実習を行い、2・3年生で行われる「実習」、「課題研究」に繋げていきます。

科目名	製図	単位数	2 単位
		学年等	機械科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業702 機械製図」</p> <p>実教出版「工業707 製図ワークノート」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決しようとしている。	工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 製図の基礎 1 機械製図と規格 2 製図用具とその使い方 3 図面に用いる文字と線 4 基礎的な図形のかき方 5 投影図のえがき方	・授業中の行動観察 ・演習ノートの記述	・授業中の行動観察 ・演習ノートの記述	・学習課題 ・授業中の取組姿勢
	評価点	100 点	100 点	100 点
2	6 立体的な図示法 7 展開図	・授業中の行動観察 ・演習ノートの記述	・授業中の行動観察 ・演習ノートの記述	・学習課題 ・授業中の取組姿勢
	評価点	100 点	100 点	100 点
3	第2章 製作図 1 製作図のあらまし 2 図形の表し方 3 寸法記入法 4 公差・表面性状 5 図面の管理	・授業中の行動観察 ・演習ノートの記述	・授業中の行動観察 ・演習ノートの記述	・学習課題 ・授業中の取組姿勢
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	第1章 製図の基礎 1 機械製図と規格 1 図面の役目と種類 2 製図の規格	2
	5	2 製図用具とその使い方 1 製図用具 2 製図用具の使い方	6
	6	3 図面に用いる文字と線 1 文字 2 線	8
	7	4 基礎的な図形のかき方 1 基礎的な作図 2 直線と円弧, 円弧と円弧のつなぎ方 3 平面曲線	8
	8	5 投影図のえがき方 1 投影法 2 投影図のえがき方	6
2	9	6 立体的な図示法 1 等角図のえがき方 2 キャビネット図	12
	10	3 カバリエ図 4 テクニカルイラストレーション	
	11	7 展開図 1 立体の展開図	12
	12	2 相貫体とその展開図	
3	1	第2章 製作図 1 製作図のあらまし	16
	2	1 製作図 2 尺度 3 図面の様式 4 製作図のかき方と検図	
	3	5 図面の管理	

5 その他

- 数字や線の引き方など、きめ細かく演習に取り組んでいきます。
- ドラフターや製図器セットの利用方法などしっかり学び、製図機器の使用方法を学んでいきます。
- 1年生で製図の基礎・基本を学び、2年生から手書きの製図に加え、CADの実習へと応用を深めていきます。

科目名	工業情報数理	単位数	2単位
		学年等	機械科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業 718 工業情報数理」</p> <p>情報技術検定問題集 2・3級 C 言語</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	450 点	450 点	450 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 産業社会と情報技術 第6章 ハードウェア 第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
2	第3章 プログラミングの基礎 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 第5章 C によるプログラミング 第7章 コンピュータネットワーク	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
3	第8章 コンピュータ制御 第10章 数理処理	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	第1章 産業社会と情報技術 1節 コンピュータの構成と特徴 2節 情報化の進展と産業社会	8 16
	5	3節 情報化社会の権利とモラル 4節 情報のセキュリティ管理 第6章 ハードウェア	
	6	1節 データの表し方 2節 論理回路の基礎 3節 処理装置の構成と動作	
2	7	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1節 コンピュータの基本操作 2節 ソフトウェアの基礎 3節 アプリケーションソフトウェア	12 18
	8	第3章 プログラミングの基礎 1節 プログラム言語 2節 プログラムの作り方	
	9	3節 流れ図とアルゴリズム 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 1節 マルチメディア 2節 プレゼンテーション 3節 文書の電子化 4節 問題の発見・解決	
3	10	第5章 Cによるプログラミング 1節 Cの特徴 2節 四則計算のプログラム 3節 文字データの取り扱い 4節 データの読取り 5節 選択処理 6節 繰返し処理 7節 配列処理 8節 外部関数 9節 グラフィックス	16
	11	第7章 コンピュータネットワーク 1節 コンピュータネットワークの概要 2節 コンピュータネットワークの通信技術	
	12	第8章 コンピュータ制御 1節 コンピュータ制御の概要 2節 制御プログラミング 3節 組込み技術	
3	1	第10章 数理処理 1節 単位と数理処理 2節 実験と数理処理 3節 モデル化とシミュレーション	

5 その他

- ・プログラミングの基礎であるC言語や流れ図(フローチャート)を学んでいく。
- ・情報化社会におけるコンピュータの役割や構造を学び、今後のIT社会への足がかりとする。
- ・情報Iの学習内容である情報デザインについて学習する。
- ・ICT機器等を利用してプログラム言語の利用方法を学習する。
- ・外部と連携した体験活動を通じて、勤労観や職業観を養うこともある。

科目名	機械工作	単位数	3単位
		学年等	機械科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、機械材料の加工や工作に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)機械工作について機械材料の加工性や工作法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)機械工作に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)工業生産における適切な機械材料の加工や工作する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した製造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業 708・709機械工作 1・機械工作 2」</p> <p>実教出版「機械工作1・2演習ノート」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>機械工作に関する学習を通して基礎的な知識と技術を理解し、工業の発展と調和のとれたありかたや現代社会における工業の意義や役割を理解している。また、その成果として、ものづくりでのいろいろな場面で問題解決を試みることができるように相互に関連させて理解している。</p>	<p>機械工作に関する諸問題の解決をめざして自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。また、その成果を適切に表現することができる。</p>	<p>身近な製品に関心を払うなどして、機械工作に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする創造的実践的な態度を身に付けている。</p>
評価点	700 点	700 点	700 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	第 1 章 工業計測と測定用機器 第 2 章 機械材料	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・演習ノート、授業ノートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・演習ノート、授業ノートの記述分析	・授業中の行動観察 ・演習ノート、授業ノートの記述分析
	評価点	200 点	200 点	200 点
2 学期	第 3 章 鋳造 第 4 章 溶接と接合 第 5 章 塑性加工	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・演習ノート、授業ノートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・演習ノート、授業ノートの記述分析	・授業中の行動観察 ・演習ノート、授業ノートの記述分析
	評価点	300 点	300 点	300 点
3 学期	第 6 章 切削加工 第 7 章 砥粒加工	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・演習ノート、授業ノ	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・演習ノート、授業ノ	・授業中の行動観察 ・演習ノート、授業ノートの記述分析

		一トの記述分析	一トの記述分析	
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学期	4	(第1章 工業計測と測定用機器) 1 計測の基礎 , 2 測定器 , 3 長さの測定 ICT学習:身近な工作機械について 4 三次元形状の測定 , 5 表面性状の測定 , 6 質量と力の測定 7 温度の測定	12
	5	●----- 1 学期中間考査	24
	6	(第2章 機械材料) 1 材料の機械的性質 , 2 金属の結晶と加工性 , 3 鉄鋼材料 4 非鉄金属材料 , 5 非金属材料 , 6 各種の材料 ICT学習:製鉄業について	
	7	●----- 1 学期期末考査	
2 学期	8	(第3章 鑄造) 1 鑄造法と鑄型 ICT学習:鑄造法について	10
	9	2 金属の溶解方法と鑄物の品質	8
	10	(第4章 溶接と接合) 1 溶接と接合 , 2 ガス溶接とガス切断 , 3 アーク溶接とアーク切断 ICT学習:溶接法の種類について 2 学期中間考査	
	11	●----- ICT学習:溶接の種類について 4 抵抗溶接 , 5 いろいろな溶接法 , 6 溶接以外の接合法	7
	12	(第5章 塑性加工) 1 塑性加工の分類 , 2 素材の加工 , 3 プレス加工 4 鍛造 , 5 その他の塑性加工 , 6 型を用いた成形法 ICT学習:プレス加工について 2 学期期末考査	20
3 学期	1	(第6章 切削加工) 1 切削工具の分類 , 2 おもな工作機械と切削工具 ICT学習:切削加工について	12
	2	3 切削工具と切削条件 , 4 切削理論 , 5 工作機械の構成と駆動装置	12
	3	(第7章 砥粒加工) 1 砥粒加工の分類 , 2 研削 , 3 砥石車 ICT学習:砥粒加工について 4 いろいろな研削 , 5 遊離砥粒による加工 ●----- 学年末考査	

5 その他

- 機械工作の授業では自分の働化をしっかり持ったうえで、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めていきます。
- 学習で学ぶ、機械加工における現象や機器についてはICT機器を活用して理解を深めます。
- 単元ごとに学習に関するまとめについて、振り返りを行い、学びの定着を行う指導を行い、学んだ知識や技術を実際に活用できる能力と態度を身に付けていきます。

科目名	工業技術基礎	単位数	3 単位
		学年等	自動車科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	7実教「工業701 工業技術基礎」 基礎自動車整備作業(日本自動車整備振興会連合会)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決することができる。	工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	400 点	400 点	400 点

3 評価の計画

区分	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	機械加工・手仕上げ	課題作品 授業中の行動観察	授業中の行動観察	ワークシート等の記述分析
	評価点	100 点	100 点	100 点
B	溶接の扱い方	課題作品 授業中の行動観察	授業中の行動観察	ワークシート等の記述分析 授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
C	自動車計測基礎	授業中の行動観察	作業レポート等 授業中の行動観察	作業レポート等 ワークシートの記述分析
	評価点	100 点	100 点	100 点
D	情報技術・電気計測	確認テスト 作業レポート等 授業中の行動観察	作業レポート等 授業中の行動観察	作業レポート等 ワークシート等の記述分析
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

区分	学習内容	時数
A	1 オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、実習報告書の作成について など) 2 旋盤作業 基本作業(バイトの取り付け、回転速度の設定) チャック作業、センタ作業 端面削り 溝入れ、穴あけ、面取り作業 3 フライス盤作業 平面加工 仕上げ加工	27
B	1 オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、実習報告書の作成について など) 2 ガス溶接 ビードを置く 切断をする 3 アーク溶接 アークを発生・ビードを置く(ストリングビード、ウィービングビード)	27
C	1 オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、実習報告書の作成について など) 2 工具の扱い方 ハンマ、ねじ回し、スケール など ペンチ、ニッパ、スパナ など 3 寸法のはかり方 ノギスによる測定 マイクロメータ・ダイヤルゲージによる測定	27
D	1 オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、実習報告書の作成について など) 2 電子部品学習 電子回路について 電子回路組立等 3 コンピュータ制御について コンピュータを使った学習内容の発表方法	24

5 その他

○各パートにおいて、必要に応じてレポートを作成してください。

科目名	工業情報数理	単位数	2 単位
		学年等	自動車科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業718 工業情報数理」</p> <p>実教出版「全国工業高等学校長協会情報技術検定問題集 2・3 級 C 言語 新訂版」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身につけている。	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。
評価点	900 点	900 点	900 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 産業社会と情報技術 第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 第3章 プログラミングの基礎	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	300 点	300 点	300 点
2	第5章 C によるプログラミング 第6章 ハードウェア 第7章 コンピュータネットワーク	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	300 点	300 点	300 点
3	第8章 コンピュータ制御 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 第10章 数理処理	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	300 点	300 点	300 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4 ～7	第1章 産業社会と情報技術 第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア (3節-5 表計算ソフトウェア の単元では、実際にコンピュータを活用) 第3章 プログラミングの基礎	24
2	8 ～ 12	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア (3節-6 プレゼンテーション支援ソフトウェア の単元では、実際にコンピュータを活用) 第5章 Cによるプログラミング 第6章 ハードウェア 第7章 コンピュータネットワーク	30
3	1～ 3	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア (3節-4 日本語ワードプロセッサソフトウェア の単元では、実際にコンピュータを活用) 第8章 コンピュータ制御 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 第10章 数値処理 (巻末 付録③ Python について の単元では、実際にコンピュータを活用)	16

5 その他

「情報Ⅰの学習内容である情報デザインについて学習する。」
「パソコン機器等を利用してプログラム言語の利用方法を学習する。」

科目名	自動車工学	単位数	3 単位
		学年等	自動車科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、安全で安心な自動車の提供に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自動車について構造と機能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自動車に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 自動車の付加価値を高める力の向上を目指して自ら学び、自動車産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書副教材等	<p>実教出版「工業 712 自動車工学 1」、</p> <p>実教出版「工業 713 自動車工学 2」、</p> <p>三級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自動車について構造と機能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	自動車に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決することが出来る。	自動車の付加価値を高める力の向上を目指して自ら学び、自動車産業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	400 点	400 点	400 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第 1 章人と自動車	・定期考査等	・定期考査等	・学習課題等
	第 2 章自動車の原理 第 4 章車体と付属装置	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・ワークシートの記述分析
	評価点	200 点	200 点	200 点
2	第 4 章車体と付属装置	・定期考査等	・定期考査等	・学習課題等
	第 10 章自動車の予防安全と衝突安全	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・ワークシートの記述分析
	評価点	100 点	100 点	100 点
3	第 10 章自動車の予防安全と衝突安全	・定期考査等	・定期考査等	・学習課題等
	第 1 章自動車と環境	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析	・ワークシートの記述分析
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4 ～ 7	第1章人と自動車 自動車の定義 自動車の歴史 自動車の分類 第2章自動車の原理 自動車の構造 エンジン本体 第4章車体と付属装置 動力伝達装置	36
2	8 ～ 12	第4章車体と付属装置 アクスル及びサスペンション ステアリング装置 第10章自動車の予防安全と衝突安全 灯火装置 計器及び警報装置告.	45
3	1 ～ 3	第10章自動車の予防安全と衝突安全 その他の装置 自動車の諸元 自動車に働く抵抗 など 第1章自動車と環境 内燃機関の概要 4サイクル・ガソリン・エンジン 概要等	24

5 その他

--

科目名	自動車整備	単位数	2 単位
		学年等	自動車科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、自動車の性能の維持、快適で安全な走行及び環境汚染の防止に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自動車について法規と整備の目的を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自動車の整備に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 自動車の整備を行う力の向上を目指して自ら学び、自動車産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業 737 自動車整備」</p> <p>三級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自動車について法規と整備の目的を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	自動車の整備に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決することを表現することができる。	自動車の整備を行う力の向上を目指して自ら学び、自動車産業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	500 点	500 点	500 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第 2 章 自動車用材料と加工	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	100 点	100 点	100 点
2	第 4 章 動力伝達装置の整備 第 7 章 電気装置の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	150 点	150 点	150 点
3	第 9 章 自動車の潤滑 第 10 章 自動車の性能試験 第 4 章 動力伝達装置の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	250 点	250 点	250 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4 ～ 7	第2章 自動車用材料と加工 材料の機械的性質・鑄造等	24
2	8 ～ 12	第4章 動力伝達装置の整備 クラッチなどの整備 第7章 電気装置の整備 バッテリー等の整備	30
3	1 ～ 3	第9章 自動車の潤滑 潤滑油等について 第10章 自動車の性能試験 動力性能試験等 第4章 動力伝達装置の整備 クラッチ・変速装置等の整備	16

5 その他

--

科目名	工業技術基礎	単位数	3 単位
		学年等	電気科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	実教出版「工業701 工業技術基礎」

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の諸課題を適切に解決することができるようにするために、工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割及び人と技術との関わりを工業生産と関連付けて理解するとともに、ものづくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付けている。	環境への配慮や安全性などに着目して、工業技術に関する課題を見だし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、工業製品が社会に与える影響に対して考え、科学的な根拠に基づき工業に携わる職業人に求められる倫理観を踏まえ工業技術の進展に対応し解決するように探求している。	工業技術に関する広い視野をもつことを目指し、環境への配慮や安全性を優先した工業製品の生産の方法を自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	400 点	400 点	400 点

3 評価の計画

区分	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	○電気工事 1. 工具・器具の正しい使用方法 2. 配線回路・配線規則の基礎 3. 図面作成・配線作業	・実習書、ワークシートの記述を分析 ・授業中の作業や行動の観察	・実習書、ワークシートの記述を分析 ・授業中の作業や行動の観察	・実習書、ワークシートの記述を分析 ・授業中の作業や行動の観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
B	○計測(直流回路) 1. 直列回路、電圧計の測定範囲を拡大 2. 並列回路、電流計の測定範囲を拡大 3. オームの法則 4. 直並列回路 5. キルヒホッフの法則	・実体配線 ・正確な計測 ・作業レポート等	・作業レポート等 ・結果の検討(グラフ) ・授業中の行動観察	・作業レポート等 ・授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点

C	○パソコン 1.文書作成ソフトの基本操作及び文書作成 2.表計算ソフトの基本操作及び資料作成	・作業レポート ・課題	・作業レポート ・課題	・作業レポート ・行動観察
	評価点	100点	100点	100点
D	○工作 1.電子工作の基本 2.電子工作の基本作業 3.テスターキット製作	・作業レポート ・行動観察 ・課題	・作業レポート ・行動観察 ・課題	・作業レポート ・行動観察
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

区分	学習内容	時数
A	第1回 オリエンテーション、事故防止と安全作業について理解する。 第2回 正しい工具の使い方や取り付け方法を理解させる。 第3回 配線図の作図及び内線規程に関する基礎的な事項を理解させる。 第4回 工具の使い方や配線や結線に必要な基礎知識を身に付けさせる。 第5回 第二種電気工事士試験の実技課題の製作を通して、一連作業の技能を身に付ける。 第6回 完成までの工程を自らが探求し、知識と実力を深めていく。	27
B	第1回 オリエンテーションとグループ実習の注意点、事故防止と安全作業の心構え、実験データの取り扱い、数値の丸め方、実習報告書の作成を理解する。 第2回 直列回路の性質を調べ、直列回路の電流、電圧、合成抵抗の関係を理解する。また、直列抵抗器の考えを理解し、電圧計の測定範囲拡大法を習得する。 第3回 並列回路の性質を調べ、並列回路の電流、電圧、合成抵抗の関係を理解する。また、分流器の考えを理解し、電流計の測定範囲拡大法を習得する。 第4回 オームの法則を調べ、理解を深めるとともに、測定技術を習得する。 第5回 直並列回路の電流、電圧、合成抵抗の関係を理解する。 第6回 キルヒホッフの法則を実験により確かめ、理解する。	26
C	第1回 オリエンテーションと Word の基本操作と文書を作成する方法を理解する 第2回 文書作成ソフトを用いて文書を編集(書式設定やページレイアウトを行う方法等)する方法を理解する 第3回 文書作成ソフトを用いて図表の挿入や文書を校閲する方法を理解する 第4回 表計算ソフトの基本機能と表を作成する方法を理解する 第5回 表計算ソフトを用いて関数を利用した表計算を行う方法を理解する 第6回 表計算ソフトを用いてデータを管理・集計・分析する方法を理解する	26
D	第1回 オリエンテーション、電子工作の基本(抵抗のカラーコード、はんだ付けの基本作業等)について理解する。 第2回 基板にリード線をはんだ付けし、基本作業を習得する。 第3～5回 テスターキットを製作し、正しく電子部品や素子を取り付ける方法を理解する。 第6回 テスターキットを製作し、動作確認とトラブルシューティングの方法を理解する。	26

5 その他

<p>実習を通して、電気に関わる事象に興味を持ち、職業観を養うとともに技術・技能を身に付けていきます。</p>

科目名	工業情報数理	単位数	2単位
		学年等	電気科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業 718 工業情報数理」</p> <p>情報技術検定問題集 2・3級 C 言語</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	450 点	450 点	450 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 産業社会と情報技術 第6章 ハードウェア 第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
2	第3章 プログラミングの基礎 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 第5章 C によるプログラミング 第7章 コンピュータネットワーク	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
3	第8章 コンピュータ制御 第10章 数理処理	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
1	4	第1章 産業社会と情報技術 1節 コンピュータの構成と特徴 2節 情報化の進展と産業社会	8 16	
	5	3節 情報化社会の権利とモラル 4節 情報のセキュリティ管理 第6章 ハードウェア		
	6	1節 データの表し方 2節 論理回路の基礎 3節 処理装置の構成と動作		
	7	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1節 コンピュータの基本操作 2節 ソフトウェアの基礎 3節 アプリケーションソフトウェア		
	8	第3章 プログラミングの基礎 1節 プログラム言語 2節 プログラムの作り方		
	9	3節 流れ図とアルゴリズム 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 1節 マルチメディア 2節 プレゼンテーション		
	10	3節 文書の電子化 4節 問題の発見・解決 第5章 Cによるプログラミング 1節 Cの特徴 2節 四則計算のプログラム		
2	11	3節 文字データの取り扱い 4節 データの読取り 5節 選択処理 6節 繰返し処理 7節 配列処理 8節 外部関数 9節 グラフィックス 第7章 コンピュータネットワーク 1節 コンピュータネットワークの概要 2節 コンピュータネットワークの通信技術	12 18	
	12	第8章 コンピュータ制御 1節 コンピュータ制御の概要		
	1	2節 制御プログラミング		
	2	3節 組込み技術		
	3	第10章 数理処理 1節 単位と数理処理 2節 実験と数理処理 3節 モデル化とシミュレーション		
	3	16		

5 その他

- ・プログラミングの基礎である C 言語や流れ図(フローチャート)を学んでいく。
- ・情報化社会におけるコンピュータの役割や構造を学び、今後の IT 社会への足がかりとする。
- ・情報 I の学習内容である情報デザインについて学習する。
- ・ICT 機器等を利用してプログラム言語の利用方法を学習する。
- ・外部と連携した体験活動を通じて、勤労観や職業観を養うこともある。

科目名	電気回路	単位数	5単位
		学年等	電気科 1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、電気現象を量的に取り扱うことに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業720 電気回路1」「工業721 電気回路2」</p> <p>実教出版「工業720・721 電気回路1・2演習ノート」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	電気現象に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、電気回路について電氣的諸量を取り扱うための基本的な知識と技能を身に付けている。	電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき探求している。	電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価点	350点	350点	350点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 電気回路の要素 第2章 直流回路	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・授業の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・授業の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	130点	130点	130点
2	第2章 直流回路 第3章 静電気	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・授業の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・授業の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	140点	140点	140点
3	第4章 磁気	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・授業の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・授業の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	80点	80点	80点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	第1章 電気回路の要素 第1節 電気回路の電流と電圧	20
	5	第2節 抵抗器・コンデンサ・コイル ●-----1学期中間考査	10
	6	第2章 直流回路 第1節 直流回路	20
	7	第2節 電力と熱 ●-----1学期期末考査	15
2 学 期	8	第2章 直流回路	15
	9	第3節 電気抵抗	
	10	第3章 静電気 第1節 電荷と電界 ●-----2学期中間考査	20
	11	第2節 コンデンサ 第3節 絶縁破壊と放電現象	15
	12	第4章 磁気 第1節 電流と磁界 ●-----2学期期末考査	5 15
3 学 期	1	第4章 磁気 第2節 磁界中の電流に働く力	10
	2	第3節 磁性体と磁気回路	15
	3	第4節 電磁誘導と電磁エネルギー ●-----学年末考査	15

5 その他

- 社会生活や工業生産に関連付けながら学ぶことで、電気の有用性について学習していきます。
- 電気技術に関する専門知識の習得および法則や基礎理論の学習を行い、演習を通して理論の使い方を学んでいきます。
- 科学的根拠に基づき、論理的に物事を考える力を育成します。

科目名	工業技術基礎	単位数	3 単位
		学年等	情報電子科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	7実教「工業701 工業技術基礎」 30 時間マスター Office2016、配布プリント

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の諸課題を適切に解決することができるようにするために、工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割及び人と技術との関わりを工業生産と関連付けて理解するとともに、ものづくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付けている。	環境への配慮や安全性などに着目して、工業技術に関する課題を見だし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、工業製品が社会に与える影響に対して考え、科学的な根拠に基づき工業に携わる職業人に求められる倫理観を踏まえ工業技術の進展に対応し解決するように探求している。	工業技術に関する広い視野をもつことを目指し、環境への配慮や安全性を優先した工業製品の生産の方法を自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	400 点	400 点	400 点

3 評価の計画

区分	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	知的財産とアイデアの発想 ① 知的財産権と産業財産権 ② インターネットに関わるトラブルと肖像権 発表のしかた ① プレゼンテーション形式による発表 ② Web ページ形式による発表	プレゼンテーション (スライド作成技能) Web ページ作成 (HTML)	プレゼンテーション (発表内容) Web ページ作成 (発表内容)	出席状況 プレゼンテーション 完成作品 Web ページ完成作品
	評価点	100 点	100 点	100 点
B	はんだ付けの基本 ① 工具の使い方 ② はんだ付け テスタ製作 ① テスタ組立て ② テスタの使用方法 ③ 目盛りの読み方 ④ カラーコード(抵抗)の読み方	工具の名称 出来栄え (基板製作) テスト評価 (テスタ製作)	工具の取扱い 安全意識 (基板製作) (テスタ製作)	出席状況 作業態度 (基板製作) (テスタ製作)
	評価点	100 点	100 点	100 点

C	電気計測 ① オームの法則を確認する ② 抵抗器を使い、直並列の接続 補助教材 ① 理解力、計算能力	器具の名称 器具の取り扱い レポート	実験内容の整理 実験内容の分析 レポート	出席状況 実習態度 報告書の整理
	評価点	100点	100点	100点
D	Excel・Wordの基本 ①タイピングの習得 ②Excelの使い方、Wordの使い方、データ分析の基礎	関数の使いかた 表、グラフの作成 タイピングの速度 レポート	検定試験の出来栄 え レポート	出席状況 実習態度 適切な技術の習得 レポート
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

区分	パート	学習内容	時数
A	マルチメディア基礎	①知的財産権と産業財産権 ・特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権といった法律で守られる権利について学ぶ。 ②プレゼンテーション形式、Web ページ形式による発表 ・プレゼンテーションに用いるスライドの作成方法を学び、発表用スライドを作成する ・Web ページ作成に必要な HTML を学び、発表用 Web ページを作成する。	27
B	工作	①オリエンテーション ・工具の説明、保護具の説明、材料の説明 ②ユニバーサル基板を使ったはんだ付け ③テストの製作 ④確認テスト ・カラーコードの読み方テスト、テストの目盛り読み方テスト	27
C	電気計測	①オリエンテーション ②オームの法則、分流器、倍率器 ・電圧と電流および抵抗の関係でオームの法則が成立することを学習する。 ・分流器の特性を調べ、電流計の測定範囲が拡大できることを知る。 ・倍率器の特性を調べ、電圧計の測定範囲が拡大できることを知る。 ③電圧降下法による中抵抗の測定 ・オームの法則を応用した測定方法を理解する。 ④キルヒホッフの法則 ・キルヒホッフの法則を、実習を通して確認する。	27
D	Excel・Wordの基本	①オリエンテーション ②タイピングの習得 ③Excelの使い方、Wordの使い方、データ分析の基礎 30時間マスター Office2016 用いたデータ入力と、四則計算の方法、関数の使いかた、表の作成、グラフの作成、パソコン利用技術検定試験2級、日本語ワープロ検定試験の実践	24

5 その他

- ・10名程度の4班に分かれ、各パートを9時間ずつ学び、1年間で3回を目安にローテーションして学習する。
- ・外部と連携した体験活動を通じて、勤労観や職業観を養うこともある。

科目名	工業情報数理	単位数	2単位
		学年等	情報電子科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業 718 工業情報数理」</p> <p>情報技術検定問題集 2・3級 C 言語</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	450 点	450 点	450 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 産業社会と情報技術 第6章 ハードウェア 第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
2	第3章 プログラミングの基礎 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 第5章 C によるプログラミング 第7章 コンピュータネットワーク	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
3	第8章 コンピュータ制御 第10章 数理処理	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	第1章 産業社会と情報技術 1節 コンピュータの構成と特徴 2節 情報化の進展と産業社会	8 16
	5	3節 情報化社会の権利とモラル 4節 情報のセキュリティ管理 第6章 ハードウェア	
	6	1節 データの表し方 2節 論理回路の基礎 3節 処理装置の構成と動作	
2	7	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1節 コンピュータの基本操作 2節 ソフトウェアの基礎 3節 アプリケーションソフトウェア	12 18
	8	第3章 プログラミングの基礎 1節 プログラム言語 2節 プログラムの作り方	
	9	3節 流れ図とアルゴリズム 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 1節 マルチメディア 2節 プレゼンテーション 3節 文書の電子化 4節 問題の発見・解決	
3	10	第5章 Cによるプログラミング 1節 Cの特徴 2節 四則計算のプログラム 3節 文字データの取り扱い 4節 データの読取り 5節 選択処理 6節 繰返し処理 7節 配列処理 8節 外部関数 9節 グラフィックス	16
	11	第7章 コンピュータネットワーク 1節 コンピュータネットワークの概要 2節 コンピュータネットワークの通信技術	
	12	第8章 コンピュータ制御 1節 コンピュータ制御の概要 2節 制御プログラミング 3節 組込み技術	
3	1	第10章 数理処理 1節 単位と数理処理 2節 実験と数理処理 3節 モデル化とシミュレーション	

5 その他

- ・プログラミングの基礎であるC言語や流れ図(フローチャート)を学んでいく。
- ・情報化社会におけるコンピュータの役割や構造を学び、今後のIT社会への足がかりとする。
- ・情報Iの学習内容である情報デザインについて学習する。
- ・ICT機器等を利用してプログラム言語の利用方法を学習する。
- ・外部と連携した体験活動を通じて、勤労観や職業観を養うこともある。

科目名	電気回路	単位数	3単位
		学年等	情報電子科1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、電気現象を量的に取り扱うことに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)電気回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業 721 電気回路1」</p> <p>実教出版「電気回路1・2 演習ノート」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電氣的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身につけようとしている。	基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用して考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。	基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに興味をもち、新しい事柄に対して意欲的に学習に取り組もうとしている。
評価点	900点	900点	900点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 電気回路の要素 1節 電気回路の電流と電圧 2節 抵抗器・コンデンサ・コイル	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析
	評価点	300	300	300
2	第2章 直流回路 1節 直流回路 2節 電力と熱 3節 電気抵抗 4節 電流の化学作用と電池	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析
	評価点	300	300	300
3	第3章 静電気 1節 電荷と電界 2節 コンデンサ 3節 絶縁破壊と放電現象	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等 ・授業の行動観察 ・ワークシートの記述分析
	評価点	300	300	300

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	第1章 電気回路の要素 1節 電気回路の電流と電圧 電気の種類や特徴を学び、関連する現象や回路の部品の特徴から基本的な電気理論を学ぶ。	12
	5	1学期中間考査	
	6	2節 抵抗器・コンデンサ・コイル 回路の基本となる三種類の部品(抵抗・コンデンサ・コイル)の特徴を学ぶ。	24
	7	1学期期末考査	
2	8	第2章 直流回路	18
	9	1節 直流回路 直流回路の電源に抵抗を接続したとき、電流や電圧は接続方法によりことなることを学習する。 オームの法則を用いて抵抗、電流、電圧の関係を学習する。 キルヒホッフの法則を用いて複雑な回路網の各抵抗に流れる電流を計算できるようになる。	
	10	2学期中間考査	
	11	2節 電力と熱 電流の発熱作用を知り、電力と電力量の違いを学習する。 3節 電気抵抗 抵抗率、導電率、抵抗の温度計数について学習する。 4節 電流の化学作用と電池 ファラデーの法則を学習する。	27
	12	2学期期末考査	
3	1	第3章 静電気 1節 電荷と電界 電荷の間に働く静電力や電荷のまわりにできる電界について学習する。 静電気に関するクーロンの法則を学習する。	24
	2	2節 コンデンサ コンデンサの電気的な性質について学習し、コンデンサを含む回路の計算ができるようになる。 コンデンサの並列接続・直列接続を理解し、合成静電容量が計算できるようになる。	
	3	3節 絶縁破壊と放電現象 絶縁破壊現象について学習する。 3学期期末考査	

5 その他

・外部と連携した体験活動を通じて、勤労観や職業観を養うこともある。

科目名	プログラミング技術	単位数	2単位
		学年等	情報電子科1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、コンピュータのプログラミングに必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>1. コンピュータのプログラミングについてシステムソフトウェアとプログラミングツールを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に着けるようにする。</p> <p>2. コンピュータのプログラミングに関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>3. コンピュータのプログラムを開発する力の向上を目指して自ら学び、情報技術の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業 333 プログラミング技術」</p> <p>東京電機大学出版局「学生のための基礎 C」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	プログラムを開発する手順を身に着けようとしている。	基本的なアルゴリズムと処理手順を実際にプログラミングすることを通して理解することができる。	コンピュータによる問題処理の手段としてプログラミングに興味関心を持ち、理解を深めようと主体的に取り組む。
評価点	900点	900点	900点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章プログラム開発 プログラム開発手順 プログラム開発環境	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業中の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業中の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等
	評価点	300	300	300
2	第2章プログラミング技法Ⅰ 基本的なプログラム プログラムの制御構造 配列とポインタ	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業中の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業中の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等
	評価点	300	300	300
3	第3章プログラミング技法Ⅱ 第4章応用プログラム 第5章入出力設計	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業中の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・授業中の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題等
	評価点	300	300	300

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	iPad またはコンピュータ室でプログラミングを行う。 第1章 プログラム開発 システム開発とプログラム開発	8
	5	プログラム開発環境	16
	6		
	7	1 学期期末考査	
2	8	iPad またはコンピュータ室でプログラミングを行う。	15
	9	第2章プログラミング技法 I 基本的なプログラミング C 言語の基本的な知識	15
	10	プログラムの制御構造 条件分岐 if 文、else if 文、複数の if 文、switch 文	
	11	繰り返し for 文、while 文、do~while 文、無限ループ文 配列とポインタ	
12	2 学期期末考査		
3	1	iPad またはコンピュータ室でプログラミングを行う。 第3章プログラミング技法 関数	16
	2	第4章応用プログラム データ構造 ファイル処理	
	3	第5章入出力設計 ネットワークの利用 制御用 IC の活用 グラフィック	
		3 学期期末考査	

5 その他

- ・iPad にc言語用のフリーのアプリをインストールします。
- ・外部と連携した体験活動を通じて、勤労観や職業観を養うこともある。

科目名	工業技術基礎	単位数	3単位
		学年等	建築科1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業701工業技術基礎」</p> <p>各担当が作成したテキスト</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を身につけ、工業の発展と環境・資源などとの調和の取れたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技術を身につけている。	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野からみずから思考し、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現し伝える能力を身につけている。	工業技術について主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身につけている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

区分	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	<p>【木材加工】</p> <p>(1) 道具の説明及び規矩術</p> <p>(2) 木材加工 ① 墨付け② 仕口等の加工</p>	○ 課題	○ 作業レポート	○作業・行動の観察 ○ 課題
	評価点	100点	100点	100点
B	<p>【造形】</p> <p>(1) レタリング</p> <p>(2) 住宅の平面図とカラープランニング</p> <p>(3) 住宅模型の製作</p>	○ 課題	○ 作業レポート	○作業・行動の観察 ○ 完成作品
	評価点	100点	100点	100点
C	<p>【測量】</p> <p>(1) 測量実習の概要</p> <p>(2) 敷地測量</p> <p>① 距離測量② 平板測量③ドローン基礎</p>	○ テキスト(課題)	○ 作業レポート	○作業・行動の観察 ○ テキスト(講義)
	評価点	100点	100点	100点
D	<p>【情報】</p> <p>(1) ワープロ</p> <p>(2) CAD (2D・3D)</p>	○ 実技テスト ○ 完成作品	○ 作業レポート	○作業・行動の観察 ○ 実技テスト ○ 完成作品
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

区分	学習内容	時数
A	<p>【木材加工】</p> <p>(1) オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、作業レポートの作成についてなど)</p> <p>(2) 道具の説明、規矩術説明 <課題>規矩術演習(さしがね演習)</p> <p>(3) 墨付け <課題>屋根模型の墨付け</p> <p>(4) 木材加工 <課題>屋根模型の加工</p> <p>(5) まとめ(振り返り)</p>	27
B	<p>【造形】</p> <p>(1) オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、作業レポートの作成についてなど)</p> <p>(2) レタリングの書体説明 <課題>レタリングの基礎練習</p> <p>(3) 住宅の平面図とカラープランニング <課題>インテリアコーディネート演習</p> <p>(4) 住宅軸組模型の製作説明 <課題>住宅軸組模型</p> <p>(5) まとめ(振り返り)</p>	24
C	<p>【測量】</p> <p>(1) オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、作業レポートの作成についてなど)</p> <p>(2) 測量実習の概要</p> <p>(3) 敷地測量</p> <p>① 敷地測量の目的</p> <p>② 距離測量 <課題1>敷地測量(三角形敷地の距離測量と敷地面積計算)</p> <p>③ 平板測量 <課題2>敷地測量(五角形敷地の平板測量と敷地面積計算)</p> <p><課題3>交会法による求点(2点)間の距離の計測</p> <p>(4) ドローン基礎</p> <p>(5) まとめ(振り返り)</p>	27
D	<p>【情報】</p> <p>(1) オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、作業レポートの作成についてなど)</p> <p>(2) ワープロソフトの使用方法を習得する。</p> <p><課題> ワープロ検定試験の内容を練習する。</p> <p><テスト> ワープロ検定試験に準じてテストを実施する。</p> <p>(3) CAD (2D) JW_CAD の使用方法を習得する。</p> <p><課題> 建築 CAD 検定試験の内容を練習する。</p> <p><テスト> 建築 CAD 検定試験に準じてテストを実施する。</p> <p>(4) CAD (3D) スケッチアップの使用方法を習得する。</p> <p><課題・作成> 使用方法を習得し、作品を作成する。</p>	27

5 その他

- 10名程度の4班に分かれ、各パートを1年間でローテーションして学習します。

科目名	工業情報数理	単位数	2単位
		学年等	建築科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業 718 工業情報数理」</p> <p>情報技術検定問題集 2・3級 C 言語</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	450 点	450 点	450 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 産業社会と情報技術 第6章 ハードウェア 第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
2	第3章 プログラミングの基礎 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 第5章 C によるプログラミング 第7章 コンピュータネットワーク	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
3	第8章 コンピュータ制御 第10章 数理処理	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	第1章 産業社会と情報技術 1節 コンピュータの構成と特徴 2節 情報化の進展と産業社会	8 16
	5	3節 情報化社会の権利とモラル 4節 情報のセキュリティ管理 第6章 ハードウェア	
	6	1節 データの表し方 2節 論理回路の基礎 3節 処理装置の構成と動作	
2	7	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1節 コンピュータの基本操作 2節 ソフトウェアの基礎 3節 アプリケーションソフトウェア	12 18
	8	第3章 プログラミングの基礎 1節 プログラム言語 2節 プログラムの作り方	
	9	3節 流れ図とアルゴリズム 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 1節 マルチメディア 2節 プレゼンテーション 3節 文書の電子化 4節 問題の発見・解決	
3	10	第5章 Cによるプログラミング 1節 Cの特徴 2節 四則計算のプログラム 3節 文字データの取り扱い 4節 データの読取り 5節 選択処理 6節 繰返し処理 7節 配列処理 8節 外部関数 9節 グラフィックス	16
	11	第7章 コンピュータネットワーク 1節 コンピュータネットワークの概要 2節 コンピュータネットワークの通信技術	
	12	第8章 コンピュータ制御 1節 コンピュータ制御の概要 2節 制御プログラミング 3節 組込み技術	
3	1	第10章 数理処理 1節 単位と数理処理 2節 実験と数理処理 3節 モデル化とシミュレーション	

5 その他

- ・プログラミングの基礎であるC言語や流れ図(フローチャート)を学んでいく。
- ・情報化社会におけるコンピュータの役割や構造を学び、今後のIT社会への足がかりとする。
- ・情報Iの学習内容である情報デザインについて学習する。
- ・ICT機器等を利用してプログラム言語の利用方法を学習する。
- ・外部と連携した体験活動を通じて、勤労観や職業観を養うこともある。

科目名	建築構造	単位数	2単位
		学年等	建築科1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業714 建築構造」</p> <p>ワークシート</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	安全で安心な建築物の構造の提案ができるようにするために、建築物の構法や建築材料の特性などを工業生産と関連付けて理解するとともに、建築物の構造の提案における様々な状況に対応できる技術を身に付けている。	構造体の特性や建築材料の性質に着目して、建築物の構造や建築材料に関する課題を見だし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、建築物が社会に与える影響に対し責任を持ち、技術者に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決するように探求している。	安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指し、先端的な構法や素材など建築物の構造や建築材料について自ら学ぶ態度や、建築物の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	800点	800点	800点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 建築構造のあらまし 1節～5節	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査等 ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査等 ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題等 授業中の行動観察
	第2章 木構造 1節～3節			
	評価点	300点	300点	300点
2	第2章 木構造 4節～8節	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査等 ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査等 ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題等 授業中の行動観察
	評価点			
3	第2章 木構造 9節～11節	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査等 ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査等 ワークシートの記述分析 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題等 授業中の行動観察
	評価点			

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数		
1	4	第1章 建築構造のあらまし	8		
	5	1節 建築構造の歴史的発達			
		2節 建築構造のなりたち			
6	3節 建築構造の分類				
		4節 建築物に働く力			
		5節 関連する法規と規準			
		1 学期中間考査			

	6	第2章 木構造	16		
	6	1節 構造の特徴と構造形式			
		2節 木材			
	7	3節 木材の接合			
		1 学期期末考査			

2	8	第2章 木構造	30		
	9	4節 基礎			
		5節 軸組			
				2 学期中間考査	

	10	6節 小屋組			
11	7節 床組				
12	8節 階段				
		2 学期期末考査			

3	1	第2章 木構造	16		
	2	9節 外部仕上げ			
		10節 内部仕上げ			
3	11節 木造枠組壁構法				
		学年末考査			

5 その他

○定期考査、提出物、学習の取組状況等を総合的に評価します。

科目名	建築計画	単位数	3単位
		学年等	建築科1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の計画に必要なし質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 建築物の計画について住空間の快適性やエネルギーを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 建築物の計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業749 建築計画」</p> <p>補助教材プリント、各種視聴覚教材、模型</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>○建築計画に関連する様々な知識を、実習や他教科との繋がりを通して、横断的に理解することができるとともに、習得した知識を様々な教科において活用できる技能を有する。</p> <p>・関連する他の科目の学習を通して既習の知識の再認識を通し新たな課題を発見し解決策を表現できる技能を有する。</p>	<p>○建築物に係る諸条件を多角的に思考し、その上で主体的に課題を発見し解決に向けて思考、判断しそれらを他教科との関連も含め自分なりの計画として表現することができる。</p> <p>・各章において建築物を単体としてではなく外的な条件も含めた総合的な環境として適切に理解できる。その上で技術者として科学的な根拠に基づき豊かな建築空間と安全性に配慮した空間の表現と提案ができる。</p>	<p>○授業内で習得した知識・技能をもとに建築物をとりまく諸課題を既習の知識をもとに主体的に発見し、より良い建築物を目指し個人および他者（グループ学習）との協力をおして理解を深めることができる。</p> <p>・現代社会が建築物を取り巻く諸問題の解決を目指して、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養いつつ、学習に取り組み、工業人としての望ましい心構えや態度を身に付けようとしている。</p>
評価点	900	900	900

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 建築と環境 1節～8節	定期考査等 授業中の行動観察 提出物 ワークシート等	定期考査等 授業中の行動観察 提出物ワークシート等	定期考査等 授業中の行動観察 提出物ワークシート等
	評価点	300	300	300
2	第2章 住宅の計画 1～5節 第4章 都市と地域の計画 1～4節	定期考査等 授業中の行動観察 提出物 ワークシート等	・定期考査等 授業中の行動観察 提出物ワークシート等	定期考査等 授業中の行動観察 提出物ワークシート等
	評価点	300	300	300
3	第5章 建築設備の計画 1～6節	定期考査等 授業中の行動観察 提出物 ワークシート等	・定期考査等 授業中の行動観察 提出物ワークシート等	定期考査等 授業中の行動観察 提出物ワークシート等
	評価点	300	300	300

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
1	4	第1章 建築と環境		
		第1節 建築と環境の概要	2	
		第2節 屋外環境と室内環境	5	
	5	第3節 換気と通風	5	
	1 学期中間考査			
	6	第4節 伝熱と結露	5	
		第5節 日照と日射	5	
		第6節 採光と照明	4	
7		第7節 色彩	5	
		第8章 音響	5	
1 学期期末考査				
2	8	第2章 住宅の計画		
		第1節 住宅の意義	2	
		第2節 住宅計画の進め方	6	
		第3節 全体計画	5	
	9	第4節 各部の計画	5	
		2 学期中間考査		
	10	第5節 バリアフリーとユニバーサルデザイン 設計演習：エスキス、ダイアグラムの作成演習	2 4	
	11	第4章 都市と地域の計画		
		第1節 都市と都市計画	6	
		第2節 都市計画制度と都市計画法	6	
		第3節 建築と地域の計画	5	
12	第4章 地域の計画とまちづくり	4		
2 学期期末考査				
3	1	第5章 建築設備の計画		
		第1節 建築設備の概要	2	
		第2節 給排水・衛生設備	4	
		第3節 空気調和・換気設備	5	
		2	第4節 電気設備	4
			第5節 防災設備	4
	第6節 搬送設備		3	
3	建築計画 総復習	2		
学年末考査				

5 その他

○定期考査、提出物、学習の取組状況を総合的に評価します。

科目名	工業技術基礎	単位数	3 単位
		学年等	環境設備科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	7実教「工業701 工業技術基礎」・配管課題図面・製図課題プリント・水質検査実習プリント

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の諸課題を適切に解決することができるようにするために、工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割及び人と技術との関わりを工業生産と関連付けて理解するとともに、ものづくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付けている。	環境への配慮や安全性などに着目して、工業技術に関する課題を見だし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、工業製品が社会に与える影響に対して考え、科学的な根拠に基づき工業に携わる職業人に求められる倫理観を踏まえ工業技術の進展に対応し解決するように探究している。	工業技術に関する広い視野をもつことを目指し、環境への配慮や安全性を優先した工業製品の生産の方法を自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	400 点	400 点	400 点

3 評価の計画

区分	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	配管作業 (1)安全作業について・工具の使い方 (2)鋼管の配管	課題作品 授業中の行動観察	授業中の行動観察 課題作品	授業中の行動観察 課題作品
	評価点	100 点	100 点	100 点
B	電気工事 (1)安全作業について・工具の使い方 (2)結線方法・配線方法 (3)電気配線図の見方・書き方	課題作品 授業中の行動観察	授業中の行動観察 課題作品	授業中の行動観察 課題作品
	評価点	100 点	100 点	100 点
C	水質検査 (1) ガラス細工 (2) 水質検査	○課題	○作業報告書	○実技テスト ○完成作品
	評価点	100 点	100 点	100 点

D	基礎製図 (1)製図器の使用方法 (2)製図の描き方	課題図 授業中の行動観察	授業中の行動観察 課題図	授業中の行動観察 課題図
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

区分		学習内容	時数
A	配管作業	1 オリエンテーション(事故防止と安全作業の心構え、課題の作成について など) 2 配管作業 基本作業(工具・管・継手の説明)(教科書 P49) 工具の使用方法を習得し課題解体作業 管寸法の算出及び墨出し作業 ねじ切り旋盤作業 配管作業(課題図による)	27
B	電気工事	1 安全作業について(工具を取り扱う際の注意事項、実習室の使用法など) [教 P25,49~55] 2 電線ケーブルの結線方法 [教 P111~116、254~266、授業プリント] 被覆のはぎとり方 ケーブル端末の処理方法(ねじり接続、分岐接続、スリーブ接続など) 3 屋内配線 [教 P254~266] 三路スイッチ回路の組立て 4 配線図の書き方・見方[授業プリント、教 P254~266] 複線図をかく。	26
C	水質検査	(1) 安全指導(薬品を扱う際の注意、実習室の使用法、器具の扱い方) (2) ガラス細工 課題 ①ガラスの切断 課題②スポイトの作成 課題③マドラーの作成 (3) 使用薬品の調合 課題 水質検査に使用する薬品を調合する (4) 水質検査 課題①検査してみたい水を持参し、水質検査を行う。課題②あらかじめ用意した未知資料を分析し、検査結果が正しいか実施テストを行う。 (5)作業報告書作成する (6)まとめ(振り返り)	26
D	基礎製図	1 オリエンテーション(製図教室の使用法、課題の作成について など) 2 製図器の使用方法及び線の描き方 3 文字の描き方(課題プリント) 4 第三角法投影図の作図(課題プリント) 5 縮尺 1/100 の住宅設備図の描き方	26

5 その他

各区分でそれぞれの評価が出来ます。

1・2 学期の通知表に記載される評価については、それぞれの学期ごとに完了した区分の評価が記載されます。

なお、一つの学期で複数の区分が完了した場合は、各区分の評価を平均したものが記載されます。

学年末には、全区分の評価を総合的に判断して、工業技術基礎全体の評価・評定が出来ます。

科目名	工業情報数理	単位数	2単位
		学年等	環境設備科 1 学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業 718 工業情報数理」</p> <p>情報技術検定問題集 2・3級 C 言語</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わるものとして科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価点	450 点	450 点	450 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 産業社会と情報技術 第6章 ハードウェア 第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
2	第3章 プログラミングの基礎 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 第5章 C によるプログラミング 第7章 コンピュータネットワーク	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点
3	第8章 コンピュータ制御 第10章 数理処理	・定期考査等 ・学習課題等	・定期考査等 ・行動観察等	・学習課題等 ・行動観察等
	評価点	150 点	150 点	150 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
1	4	第1章 産業社会と情報技術 1節 コンピュータの構成と特徴 2節 情報化の進展と産業社会	8	
	5	3節 情報化社会の権利とモラル 4節 情報のセキュリティ管理		
	6	第6章 ハードウェア 1節 データの表し方 2節 論理回路の基礎 3節 処理装置の構成と動作	16	
	7	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1節 コンピュータの基本操作 2節 ソフトウェアの基礎 3節 アプリケーションソフトウェア		
	8	第3章 プログラミングの基礎 1節 プログラム言語 2節 プログラムの作り方		
	2	9	3節 流れ図とアルゴリズム 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 1節 マルチメディア 2節 プレゼンテーション	12
		10	3節 文書の電子化 4節 問題の発見・解決 第5章 Cによるプログラミング 1節 Cの特徴 2節 四則計算のプログラム	
11		3節 文字データの取り扱い 4節 データの読取り 5節 選択処理 6節 繰返し処理 7節 配列処理 8節 外部関数 9節 グラフィックス 第7章 コンピュータネットワーク 1節 コンピュータネットワークの概要 2節 コンピュータネットワークの通信技術		
12		第8章 コンピュータ制御 1節 コンピュータ制御の概要		
1		2節 制御プログラミング		
2		3節 組込み技術		
3		第10章 数理処理 1節 単位と数理処理 2節 実験と数理処理 3節 モデル化とシミュレーション		
3	12	第8章 コンピュータ制御 1節 コンピュータ制御の概要 2節 制御プログラミング 3節 組込み技術	16	

5 その他

- ・プログラミングの基礎である C 言語や流れ図(フローチャート)を学んでいく。
- ・情報化社会におけるコンピュータの役割や構造を学び、今後の IT 社会への足がかりとする。
- ・情報 I の学習内容である情報デザインについて学習する。
- ・ICT 機器等を利用してプログラム言語の利用方法を学習する。
- ・外部と連携した体験活動を通じて、勤労観や職業観を養うこともある。

科目名	設備計画	単位数	3単位
		学年等	環境設備科 1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、設備の計画に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 設備計画について設備の要素と建築物や社会基盤との関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 設備の計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対し解決する力を養う。</p> <p>(3) 安全で快適な生活環境における設備を提案する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	7実教「工業338 設備計画(文部科学省)」

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	設備計画について設備の要素と建築物や社会基盤との関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	設備の計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対し解決する力を付けている。	安全で快適な生活環境における設備を提案する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 設備の基礎 第1節 設備の概要 第2節 自然環境 第3節 室内環境 第4節 流体・熱に関する力学	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートの記述分析
	評価点	100点	100点	100点
2	第4節 流体・熱に関する力学 第2章 設備に関する建築構造 第2節 建築構造と材料 第3節 構造物の力学	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートの記述分析
	評価点	100点	100点	100点
3	第4章 設備の施工 第1節 施工管理 第5章 設備関係法規 第1節 法規	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートの記述分析
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	第1章 設備の基礎 第1節 設備の概要	6
	5	第2節 自然環境 第3節 室内環境 第4節 流体・熱に関する力学	6
	6	中間審査・ノート点検 第4節 流体・熱に関する力学	15
	7	期末審査・ノート点検	9
2	8	第4節 流体・熱に関する力学	3
	9	第2章 設備に関する建築構造 第2節 建築構造と材料	11
	10	中間審査・ノート点検 第3節 構造物の力学	11
	11	第4章 設備の施工 第1節 施工管理	9
	12	期末審査・ノート点検	
3	1	第1節 施工管理	11
	2	第5章 設備関係法規 第1節 法規	11
	3	期末審査・ノート点検	2

5 その他

--

科目名	地球環境化学	単位数	2 単位
		学年等	環境設備科 1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、化学技術を活用して環境の保全に貢献する職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)環境化学について資源及びエネルギーの有効利用や化学技術を活用した環境の保全を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)環境化学に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3)化学技術を活用して環境の保全に貢献する力の向上を目指して自ら学び、化学工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>実教出版「工業380 地球環境化学」</p> <p>数研出版「もういちど読む 数研の高校化学」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地球環境や化学についての基礎的な知識をもち、関連する資料を収集し、比較検討することができる。また、環境の測定や分析方法、環境保全技術などの知識をもち、環境保全の取り組みを理解している。	地球環境の諸問題を発生の原因・背景と人間の生産活動・経済活動との関連など様々な観点から総合的にとらえ考察することができ、次世代に向けて地球環境に対して責任をもった考え方を発言することができる。	地球環境の諸問題の解決に向けて自ら考える態度が身についている。また、化学技術者としてのあり方、生き方について考え、自らの行動と地球環境との関連について考える態度をもっている。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 地球と環境と人間 第1節 地球と人類 第2節 地球環境問題 第2章 地球環境 第1節 大気の世界	・定期考査 ・ノート作成	・定期考査 ・ノート作成	・学習計画作成 ・ノート作成
	評価点	110 点	110点	110点
2	第2節 水の環境 第3節 土壌の環境 第4節 環境と生態系 第3章 人間活動と環境 第1節 人間活動を支える物質資源	・定期考査 ・ノート作成	・定期考査 ・ノート作成	・学習計画作成 ・ノート作成
	評価点	130 点	130点	130点
3	第2節 人間活動を支えるエネルギー 第3節 化学物質の影響	・定期考査 ・ノート作成	・定期考査 ・ノート作成	・学習計画作成 ・ノート作成
	評価点	60 点	60点	60 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	第1章 地球と環境と人間 第1節 地球と人類	6
	5	<hr/> 1学期 中間考査	6
	6	第2節 地球環境問題 第2章 地球環境	8
	7	第1節 大気の世界 <hr/> 1学期 期末考査	4
		第2節 水の環境	
2	8		2
	9	第3節 土壌の世界	7
	10	<hr/> 2学期 中間考査	7
	11	第4節 環境と生態系 第3章 人間活動と環境 第1節 人間活動を支える物質資源	8
	12	<hr/> 2学期 期末考査 第2節 人間活動を支えるエネルギー	6
3	1		6
	2	第3節 化学物質の影響	8
	3	<hr/> 学年末考査	2

5 その他

- 学習の到達目標達成のためには、化学についての基礎的な知識や技術を習得していることが必要であり、そのために、副教材として「もういちど読む 数研の高校化学」を使用して学習を進める。
- 地球環境問題の現状や、その問題解決についての現在の取り組み、対策技術について理解を深めるために、生徒各自がタブレットを用いての調べ学習を進める。